

ときめき人

Tokimeki bito



「心一つに」 歩んだ畜産業。 三人四脚これか らも変わらず。

迫町・仮屋
千葉 哲雄さん

ちば・てつお
1946年生まれ

Profile

実家が家畜商を営んでいたこともあり、結婚後は肉用牛の肥育に取り組む。1頭の牛から始まったが、最高時は183頭飼養。その後4回経営を見直し、現在は160頭の去勢和牛を肥育。2010年にも全農肉牛枝肉共励会で優秀賞を受賞。妻、息子と3人家族。

「35年続けてきたけど、こんな賞を受賞できるなんて夢のような話」と謙虚に話す千葉さん。先月、第18回全農肉牛枝肉共励会が開かれ、枝肉を出品。見事、最高位の名誉賞を受賞した。

妻豊子さんと結婚し、千葉家に婿入り。当時は、コメを主品目に農業経営をしていた。しかし、将来を見据え、コメに変わるものが必要と判断。結婚から10年、一大決心をし肉用牛の肥育に取り組み始めた。

実家が家畜商を営んでいたの、牛飼養や畜産経営の基本的なノウハウはあった。しかし見るのとやるのでは大違い。いろんな困難を、豊子さんと二人三脚で乗り越えてきた。「嫁さんがいたからこそここまでこれたね」と豊子さんをねぎらう。

牛飼養は重労働。朝早くから餌や、ふんの処理

など、休む暇がない。生き物相手に365日続く。全員が家を空けられないので、家族旅行にも行けない。「でもね牛と育ててきて心から好きだからね」と目を細める。牛の面倒は徹底して見る。気持ちよく過ごしてもらうため、畜舎は常に清潔に保たれ、こまめにブラッシングしている。体調管理は1頭1頭、その牛にあったやり方を心がけ、小さな変化を見逃さない。日々の研さんがあったからこそ、今回の最高賞受賞となったのだ。

「自分なりのやり方を通せたのは、息子も協力してくれたからね。そうでなければ、今の仕事量はこなせなかったよ」。これからは息子豊さんが中心となり経営していく。「良質の肉牛を生産しつつづけることが、自分たちの目標」。今日も3人で牛と向き合う。

編集後記

▼佐沼高、登米高野球部の同時8強入り。選手や関係者は、もっと上を目指していたと思う。悔しい気持ちはあるはず。昨年、一昨年の活躍に、追いつき追い越せと努力してきた彼ら。努力の結果なのだから、胸を張ってよいと思う。そして、ここに登米総合産業高が加われば、市民にとって何より楽しい夏になる。(及川)

▼この時期は、毎週のようにお祭りがあって楽しいですよ。取材してみると新たな発見や感動がたくさんあります。ぜひ皆さんも、夏の思い出にお祭りに出かけてみませんか。登米市のお祭りはどれもオススメです。(千葉)

▼市内各所にお邪魔して写真撮らせていただきました。目になります。広報を担当して3年目になります。初めて見るイベントもあり、カメラを持ちながらいつも一緒に楽しんでます。子どもたちも大勢見かけ、無邪気な笑顔に心が癒されます。また、頑張ろうという気持ちになりますね。(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>